

出前授業を開催しました

～伊江・西小学校、伊是名小学校、多良間小学校～

土地改良総合事務所では、10月～12月の間、伊江村、伊是名村(国営完了地区)及び多良間村(調査地区)の小学校で、出前授業を開催しました。

日本の農業を取り巻く状況や食のはなし、農業と水の関係及びかんがい施設の役割等について、実際の施設を見て触れてもらうことで、子ども達が地域の農業に対する関心を高め、農業農村備事業の役割や重要性について理解を深めてもらうことを目的としています。

伊江小学校・西小学校 令和4年10月25日(火) 4年生30名(伊江小14名、西小16名)

▶室内学習 ー地下ダムのはなし、伊江島の農業の変化ー

伊江農業水利事業で整備した中央管理所において、地下ダムの仕組みや役割を動画などにより説明しました。

また、地下ダムの水を利用した「水あり農業」により、水をかける作業の労力が低減、干ばつ被害が防止されたこと、高収益作物の生産が拡大されたことなど、伊江島の農業が変化したことについても話しました。

子ども達からは「雨が降らないとき、地下ダムの水は何日持ちますか?」「ファームポンドはどうして2つあるのですか?」など質問が寄せられました。



室内学習の様子

▶現地学習 ー止水壁の説明、2号ファームポンドの見学、散水体験ー

次に、現地に出て、止水壁のレプリカを用いて地下で水がたまる仕組みや、地下ダムの水をポンプを使いファームポンドにくみ上げること、さらに、そこから畑のスプリンクラーで散水される様子を実際に見てもらいました。

出前授業を通して、地下ダムができたことによって伊江島の農業がどのように変化したのかを知ってもらい、今後の伊江島の農業についても関心を高めてもらえればと思います。



止水壁(レプリカ)見学



2号ファームポンド見学

集合写真



伊是名小学校 令和4年 12 月 7 日(水) 4年生 13 名

▶**室内学習** ー食べ物のはなし、地下ダムのはなしー

「食べ物のはなし」では、お店に売られている食品のパッケージを実際に見せながら、多くの食品は海外からのもので、先進国の中で日本の食料自給率が低い現状であること、その自給率を高めるためには、国内で生産された作物を多く消費し、また多く生産する必要があるため、畑やかんがい施設の整備が重要であることについて、「地下ダムのはなし」では、伊是名島に地下ダムを造った理由、降った雨の流れ、地下ダムの仕組みなどを解説し、地下ダムを含むかんがい施設が整備されたことにより、必要な時に水をかけることが可能となり、おいしい作物がたくさん作れるようになったことを説明しました。

子ども達は、職員の話をもとにノートに書き込みながら、手を挙げて積極的に質問していました。



室内学習の様子

▶**現地学習** ー千原第1副貯水池、千原取水機場、千原貯水池ー

伊是名村土地改良区職員の説明により、千原第1副貯水池、千原取水機場及び千原貯水池の見学を行いました。

千原第1副貯水池のタンクの屋上で関連施設を見渡し、千原取水機場では、実際のポンプを見てもらいながら送水方法を説明しました。

最後は、貯水池を一周したいという子ども達からのリクエストを受け、貯水池の外周をバスに乗って一周しました。

子ども達からは「千原地下ダムは、25メートルプールの2,200杯分あるのにびっくり!」、「二つのファームポンドで島中のたくさんの畑に水を送っていてすごい!」などの感想が聞かれ、説明内容を理解できていると感じました。

聞いて、見て、触れる出前授業を通じて、食べ物大切さや農業における水の大切さを学び、これからの伊是名島の農業について、大人になっても興味や関心が続くことを期待しています。

多良間小学校 令和4年 12 月7日(水) 4年生 15 名

▶**室内学習** ー食べ物のはなし、多良間島の水のはなしー

「食べ物のはなし」では、日本の食料自給率の説明で、日本の食料自給率は低く、国内で作られた食べ物だけでは、お腹いっぱい食べることができない現状を伝え、地元で作られた農作物を食べることは食料自給率を高める取り組みにつながることを説明しました。

「多良間島の水のはなし」では、多良間島の降水量や雨水の流れ、ため池や淡水レンズ(地下水)の説明をし、多良間島の集水面積は小さく、ため池の貯水量も多くはないため、水を大切に使うしてほしいこと、地下水を汚さないため、ごみを捨てないでほしいことなどを話したところ、子どもたちは真剣な表情で聞いていました。

▶**現地学習** ー地下水用井戸、赤地原ため池、グリーンベルト設置ー

地下水観測の井戸では、井戸を掘った理由や地下水について説明し、赤地原ため池では、ため池の水がどのようにして畑まで届くのかについて説明しました。

実際にため池に設置されている給水スタンドから水を流してみると、子ども達は水が流れる様子に驚いていました。

最後には、多良間村役場とベチバーのグリーンベルト設置活動を行いました。この活動は、耕土層が薄い多良間島における土壌保全や、水路の機能確保等の重要性について、理解を深めてもらうことを目的に毎年実施されています。多面的機能支払の活動組織や農家とも協力し、ベチバーの植付けを楽しみつつ植付け作業を行いました。

参加した子ども達からは、「自分たちの島で作られたものを食べていきたい」や「淡水レンズのことを知ることができた」などの感想が聞かれました。

今回の出前授業で、子ども達が多良間島の水や土壌保全の大切さを知り、農業について関心を持つきっかけになることを期待しています。



室内学習の様子



地下水観測用井戸見学



ため池横の給水スタンドから水を流している様子



ベチバー植栽の様子

(発信:土地改良総合事務所)